

2020年6月29日～18日

世論調査（時事、共同＝東京・日経）、朝日、毎日、文春オンライン、憲法

### 内閣支持横ばい40% コロナ対応「評価せず」過半数一時事世論調査

時事通信 2020年06月27日 15時07分



時事通信が実施した6月の世論調査で、安倍内閣の支持率は前月比2.2ポイント増の40.3%、不支持率は同2.2ポイント減の59.1%だった。新型コロナウイルス感染拡大への政府対応に関しては「評価しない」が54.8%で、「評価する」の44.2%を上回った。

支持率、不支持率は共に横ばいで、不支持率は高い水準にある。18日に逮捕された前法相の衆院議員河井克行容疑者と妻の参院議員案里容疑者の公職選挙法違反事件も影響したとみられる。

政府が緊急事態宣言を5月中旬に全面解除したことについて、「適切」が50.3%と半数を超え、「早すぎた」は36.7%、「遅すぎた」は11.2%。新型コロナを受けた事業規模230兆円超の緊急経済対策に関しては、「不十分だ」が50.8%で、「十分だ」は46.2%だった。

	6月	5月	3月		6月	5月	3月
自民党	33.9%	30.9%	24.0%	共産党	2.2%	3.4%	1.6%
立憲民主党	7.2%	6.6%	3.5%	社民党	1.1%	0.9%	0.5%
国民民主党	1.2%	1.2%	0.4%	れいわ新選組	1.5%	1.5%	0.7%
公明党	4.3%	4.0%	3.5%	NHKから国民を守る党	0.4%	0.6%	0.1%
日本維新の会	5.9%	7.7%	1.3%	支持なし	40.8%	42.0%	62.4%

内閣を支持する理由（複数回答）では、「他に適当な人がいない」が最多の26.0%で、「首相を信頼する」11.7%、「リーダーシップがある」7.2%と続く。支持しない理由（同）は、「首相を信頼できない」（42.0%）、「期待がもてない」（40.3%）、「政策がだめ」（26.1%）が上位を占めた。

政党支持率は、自民党が前月比3.0ポイント増の33.9%、立憲民主党が同0.6ポイント増の7.2%、以下、日本維新の会5.9%、公明党4.3%、共産党2.2%、れいわ新選組1.5%、国民民主党1.2%、社民党1.1%、NHKから国民を守る党0.4%で、「支持政党なし」は40.8%だった。

調査は従来、個別面接方式で行ってきたが、新型コロナの感染状況を踏まえて、前月に続いて郵送方式で実施。6月11日に一斉投函（とうかん）し、22日回収分をもって締め切った。対象は全国18歳以上の男女2000人で、有効回収率は49.3%だった。

### 都知事選、小池氏が優勢 投票先未定3割、共同通信調査

2020/6/28 21:23 (JST)共同通信社



東京都知事選の候補者の街頭演説に集ま

った有権者らに、社会的距離を保つように促す選挙スタッフ＝28日午後、東京都内（画像の一部を加工しています）

共同通信社は、7月5日投開票の東京都知事選について電話世論調査を26～28日に行い、取材結果も踏まえて情勢を分析した。再選を目指す現職の小池百合子氏（67）が他候補を引き離して優勢となっている。元日弁連会長の宇都宮健児氏（73）、れいわ新選組の山本太郎代表（45）が追い、元熊本県副知事の小野泰輔氏（46）＝維新推薦＝が続く。

諸派でNHKから国民を守る党党首の立花孝志氏（52）＝N国推薦＝ら18人も立候補しているが、広がりやを欠く。3割はまだ投票先を決めておらず、情勢が変わる可能性がある。

調査はRDD法で実施。1030人から回答を得た。

### 小池氏優勢、ほか3氏迫り 投票先未定も約3割 共同通信情勢調査

日経新聞 2020/6/28 19:10 (2020/6/28 20:55 更新)

共同通信社は7月5日投開票の東京都知事選について電話世論調査を26～28日に行い、取材結果も踏まえて情勢を分析した。再選を目指す現職の小池百合子氏（67）が他候補を引き離して優勢となっている。

元日弁連会長の宇都宮健児氏（73）、れいわ新選組の山本太郎代表（45）が追い、元熊本県副知事の小野泰輔氏（46）＝維新推薦＝が続く。

諸派でNHKから国民を守る党党首の立花孝志氏（52）＝N国推薦＝ら18人も立候補しているが、広がりやを欠く。3割はまだ投票先を決めておらず、情勢が変わる可能性がある。

知事選への関心を聞いた質問では「大いにある」が36.4%、「ある程度ある」が51.2%だった。

支持政党別に投票先を見ると、小池氏が無党派層も含めて幅広く浸透。自民支持層の7割、公明支持層の9割が小池氏を選んだ。無党派層では6割だった。

宇都宮氏を支援する立憲民主党の支持層でも6割が小池氏に流れ、宇都宮氏を選ぶのは2割にとどまった。共産支持層に関しては、宇都宮氏が6割を固めた。

投票するに当たって最も重視する基準は「政策」が25.2%で最も多かった。「リーダーシップ」の21.3%、「新型コロナウイルス対策」の14.6%が続いた。

小池都政の4年間については「評価する」が22.8%、「どちらかと言えば評価する」が57.8%で、多くが好意的に捉えていた。

調査は、都内の有権者を対象にコンピューターで無作為に発生させた番号に電話するRDD（ランダム・デジット・ダイヤリング）法で実施した。有権者がいる世帯にかかったのは1457件で、うち1030人から回答を得た。

〔共同〕

## 都知事選、小池氏が優勢 投票先未定3割、共同通信調査

東京新聞 2020年6月28日 21時23分 (共同通信)

東京都知事選の候補者の街頭演説に集まった有権者らに、社会的距離を保つように促す選挙スタッフ＝28日午後、東京都内(画像の一部を加工しています)



共同通信社は、7月5日投開票の東京都知事選について電話世論調査を26～28日に行い、取材結果も踏まえて情勢を分析した。再選を目指す現職の小池百合子氏(67)が他候補を引き離して優勢となっている。元日弁連会長の宇都宮健児氏(73)、れいわ新選組の山本太郎代表(45)が追い、元熊本県副知事の小野泰輔氏(46)＝維新推薦＝が続く。

諸派でNHKから国民を守る党党首の立花孝志氏(52)＝N国推薦＝ら18人も立候補しているが、広がりやを欠く。3割はまだ投票先を決めておらず、情勢が変わる可能性がある。

調査はRDD法で実施。1030人から回答を得た。

## 都民の51%「五輪の中止・再延期を」 都知事選巡り東京新聞世論調査

東京新聞 2020年6月29日 05時55分

7月5日投開票の東京都知事選に絡み、東京新聞は26～28日、世論調査を実施した。来夏に延期された東京五輪・パラリンピックについて、中止や再来年以降への再延期を求める回答が51・7%に上り、半数を超えた。一方で、来夏の開催を求める回答が46・3%となり、意見が割れる結果となった。(小倉貞俊)

五輪・パラの開催を巡っては「中止」が27・7%で、「再来年以降に再延期」が24・0%。一方、「簡素化、無観客など運営方式を見直して開催」が31・1%と最も多く、「計画通りに開催」(15・2%)を加えると、半数近くが来夏の開催を求めている。

年代別では、30代以下の6割弱が来夏の開催を求めているのに対し、40代以上は、中止や再延期が6割近くに上った。

選挙戦では、現職小池百合子氏(67)が来夏の開催を掲げており、宇都宮健児氏(73)は中止を含めた早期の判断を、山本太郎氏(45)は中止を主張。小野泰輔(46)、立花孝志(52)の両氏は再来年以降への延期を訴えている。

一方、都の新型コロナウイルス感染症対策について「ある程度評価する」と「大いに評価する」が合わせて70・7%で、「あまり評価しない」「全く評価しない」の計28・3%を大幅に上回った。年代別では30代以外の幅広い世代で都の対策を高く評価する傾向が出た。

コロナ対策で都に最も望む施策についての質問では、「PCR検査や保健所の態勢強化」が30・3%と最も多かった。年代別では、感染すれば重症化のリスクが高い60代以上で最多の4割を占めた。次いで「医療機関への支援」の20・7%、「積極的

な情報開示」15・9%、「景気・雇用・貧困対策」の10・0%などだった。

調査は共同通信と東京MXテレビと行い、都内の有権者を対象にコンピューターで無作為に選んだ番号に電話する方法で、1030人から回答を得た。

世論調査の詳細は30日朝刊に掲載します。

### ◆小池氏が他候補引き離す

世論調査では都知事選に関する情勢を分析した。再選を目指す現職の小池百合子氏(67)が他候補を大きく引き離し、安定した戦いを繰り広げている。立憲民主、共産、社民が支援する元日弁連会長の宇都宮健児氏(73)が続き、れいわ新選組代表の山本太郎氏(45)、元熊本県副知事の小野泰輔氏(46)＝維新推薦＝が追う展開。ただ3割弱が「まだ決めていない」としており、情勢は変化する可能性がある。

小池氏は自民支持層や公明支持層の7～8割超を固める。さらに立民、国民、維新の支持層の4～6割、支持政党なし層の6割など幅広く支持を集め、共産支持層の2割にも食い込む。

宇都宮氏は、共産支持層の6割を押さえるが、立民支持層の支持は2割にとどまる。山本氏は、れいわ支持層の6割を固め維新支持層にも食い込むものの、支持政党なし層を含むそれ以外の層には浸透しきれていない。

小野氏は維新支持層の支持が1割程度にとどまる。NHKから国民を守る党推薦の立花孝志氏(52)は、支持に広がりやを欠く。

都知事選について「大いに興味がある」は36・4%、「ある程度興味がある」は51・2%だった。(岡本太)

お断り 本紙など3社の電話調査は調査の信頼性を確保するため、幹事社の共同通信の担当者が調査に立ち会い、オペレーターと回答者のやりとりを確認しました。また調査終了後には詳しいデータの提供を受け、内容をチェックしました。産経新聞とフジテレビの合同調査で今月、調査会社から業務の一部を再委託された業者の不正が発覚しましたが、本紙などの委託先は別の調査会社で、再委託がないことも確認しています。

## 東京都民、五輪「来夏開催」が35% 朝日新聞世論調査

朝日新聞デジタル 2020年6月28日 21時53分

朝日新聞社が27、28日に実施した東京都知事選の情勢調査と同時に実施した世論調査で、来夏に延期された東京五輪・パラリンピックの開催についても聞いた。どのようにするのがよいか3択で聞くと、「来夏に開催」は35%、「再延期」は28%、「中止」は31%と、意見が割れた。いずれの意見の有権者も、支持する候補では小池百合子氏が最も多かった。

新型コロナウイルスをめぐる東京都の対応については「評価する」は63%で、「評価しない」の29%を上回った。

今後のコロナ対策で、知事に、より力を入れてほしいことを選んでみると、「感染拡大の防止」64%が、「経済の活性化」26%より多かった。

### 調査方法

27、28の両日、コンピューターで無作為に作成した固定電話番号に調査員が電話をかけるRDD方式で、都内の有権者を対象に調査した。有権者がいると判明した2294世帯のうち、1326人の有効回答を得た。回答率は58%。

## 東京都民、五輪「来夏開催」が35% 朝日新聞世論調査

朝日新聞デジタル 2020年6月28日 21時53分

朝日新聞社が27、28日に実施した東京都知事選の情勢調査と同時に実施した世論調査で、来夏に延期された東京五輪・パラリンピックの開催についても聞いた。どのようにするのがよいか3択で聞くと、「来夏に開催」は35%、「再延期」は28%、「中止」は31%と、意見が割れた。いずれの意見の有権者も、支持する候補では小池百合子氏が最も多かった。

新型コロナウイルスをめぐる東京都の対応については「評価する」は63%で、「評価しない」の29%を上回った。

今後のコロナ対策で、知事に、より力を入れてほしいことを選んでもらうと、「感染拡大の防止」64%が、「経済の活性化」26%より多かった。

### 調査方法

27、28の両日、コンピューターで無作為に作成した固定電話番号に調査員が電話をかけるRDD方式で、都内の有権者を対象に調査した。有権者がいると判明した2294世帯のうち、1326人の有効回答を得た。回答率は58%。

## 都知事選、小池氏が安定 宇都宮氏ら苦戦 朝日情勢調査

朝日新聞デジタル 2020年6月28日 21時48分

7月5日投開票の東京都知事選について、朝日新聞社は27、28の両日、都内の有権者に電話調査し、取材で得た情報とあわせて情勢を探った。現職の小池百合子氏(67)が安定した戦いぶり、元日弁連会長の宇都宮健児氏(73)、れいわ新選組代表の山本太郎氏(45)、元熊本県副知事の野野泰輔氏(46)らは苦戦している。

投票態度を明らかにしていない人が3割おり、情勢は変わる可能性がある。

態度を明らかにした人を分析すると、小池氏は自民支持層の8割、公明支持層の大半を固めた。無党派層の7割にも浸透し、他候補を引き離している。

宇都宮氏は、支援を受ける立憲民主支持層への浸透は不十分で、共産支持層もまとめ切れていない。無党派層の支持も1割ほど。年代別に見ると、60代以上の支持が比較的厚い。

山本氏は、れいわ支持層に浸透し、立憲支持層の一部にも食い込む。無党派層の支持は1割近くで、伸び悩んでいる。

日本維新の会の推薦を受ける小野氏も、同様に無党派層に浸透できていない。年代別では40～50代の支持が比較的厚い。

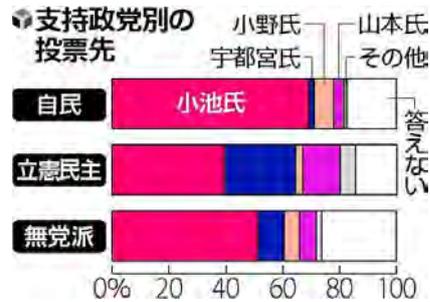
NHKから国民を守る党党首の立花孝志氏(52)は、支持の広がりが見られない。

### 調査方法

27、28の両日、コンピューターで無作為に作成した固定電話番号に調査員が電話をかけるRDD方式で、都内の有権者を対象に調査した。有権者がいると判明した2294世帯のうち、1326人の有効回答を得た。回答率は58%。

## 都知事選、現職の小池氏が安定した戦い…読売情勢調査

読売新聞 2020/06/28 09:31



7月5日投開票の東京都知事選について、読売新聞社は世論調査と取材を基に情勢を分析した。過去最多となった2人の候補者の中で、現職の小池百合子氏(67)が他候補を大きく引き離し、安定した戦いを展開している。ただ、有権者の2割以上が態度を明らかにしていない。

ほかの主要候補では、元日本弁護士連合会会長の宇都宮健児氏(73)が続き、前熊本県副知事の野野泰輔氏(46)とれいわ新選組代表の山本太郎氏(45)は横一線だが、いずれも支持に広がりを見せている。

支持政党別で見ると、自民支持層と公明支持層のそれぞれ約7割が小池氏を支持。立憲民主党の支持層でも、約4割が小池氏を支持し、2割強が宇都宮氏、1割強が山本氏を支持している。

都市部で選挙結果に影響を及ぼすことが多い無党派層では、約5割が小池氏を支持し、宇都宮氏が約1割、山本氏が1割弱の支持を得ている。小野氏は新宿区や港区など都心部の有権者の1割強の支持を得ている。

新型コロナウイルス感染症の収束が見通せない中で行われている都知事選で、争点として重視する問題(複数回答)を尋ねたところ、「新型コロナウイルス対策」が82%と最多となった。さらに、「高齢化対策や福祉政策」と「景気や雇用対策」が各72%など、感染拡大の影響が大きい課題が続いた。一方、「五輪・パラリンピックへの取り組み」は40%にとどまり、来年に延期された東京大会に対し、他の争点に比べて関心があまり高まっていないことが浮かび上がった。

調査は6月25～27日、東京都を対象に、無作為に作成した番号に電話をかける方法で実施。有権者居住が判明した1309世帯の中から766人の回答を得た。回答率59%。

## 小池氏が優勢、他候補大きく引き離す 山本氏ら2番手争い 毎日新聞都知事選調査

毎日新聞 2020年6月27日 18時25分(最終更新 6月27日 18時25分)



東京都庁＝小川信撮影

毎日新聞は27日、東京都知事選(7月5日投開票)についてインターネット調査を実施し、情勢を探った。現職の小池百合子氏が優勢。大きく引き離されて、れいわ新選組代表の山本太郎氏、日本維新の会が推薦する野野泰輔氏、立憲民主・共産・社民各党の支援を受ける宇都宮健児氏が2番手を競る展開となっている。都知事選には4氏のほか、NHKから国民を守る党党首の立花孝志

氏ら18人が立候補。投票先を答えない人が2割以上おり、情勢が変化する可能性もある。

調査対象者はNTTドコモ・プレミアパネルの都内在住者から無作為に抽出し、566人が回答。56%が「必ず投票に行く」、25%が「たぶん投票に行く」と答えた。「もう投票に行った」は4%だった。

小池氏は事実上の支援を受ける自民党支持層の約7割、公明党支持層の9割近くを固め、無党派層の約半数にも浸透。立憲民主党や日本維新の会の支持層も半数前後が小池氏に流れており、野党系候補は支援を受ける政党の支持層を固め切れていない。

調査では、4年間の小池都政の評価も尋ねた。「ある程度」(61%)と「大いに」(12%)を合わせて73%が「評価する」と回答。前回の都知事選で小池氏に投票したと答えた人の約7割が今回も小池氏を支持している。

新しい知事に期待することを自由に書いてもらったところ、346人が何らかの回答を書き込んだ。そのうち72人が「コロナ」に触れており、新型コロナウイルス対策を求める声が強いのをうかがわせた。「オリンピック」に触れたのは37人で、来年夏に延期された東京オリンピック・パラリンピックの「開催」を期待するか、「中止」を求めるかで回答が割れた。【大隈慎吾】

## 小池氏、自公支持層大半固める 野党・無党派層の半数も 毎日新聞都知事選調査

毎日新聞 2020年6月27日 18時55分(最終更新 6月27日 18時55分)



東京都庁＝小川信撮影

毎日新聞は27日、東京都知事選(7月5日投開票)についてインターネット調査を実施し、情勢を探った。現職の小池百合子氏が優勢。大きく引き離されて、れいわ新選組代表の山本太郎氏、日本維新の会が推薦する小野泰輔氏、立憲民主・共産・社民各党の支援を受ける宇都宮健児氏が2番手を競る展開となっている。都知事選には4氏のほか、NHKから国民を守る党党首の立花孝志氏ら18人が立候補。投票先を答えない人が2割以上おり、情勢が変化する可能性もある。

調査対象者はNTTドコモ・プレミアパネルの都内在住者から無作為に抽出し、566人が回答。56%が「必ず投票に行く」、25%が「たぶん投票に行く」と答えた。「もう投票に行った」は4%だった。

残り393文字(全文705文字)

## 安倍晋三内閣の支持率はまさかの「21.6%」——文春オンライン6月調査

「文春オンライン」編集部 2020/06/18

『文春オンライン』では、緊急アンケート「安倍晋三内閣を支持しますか?」「次期首相になってほしいのは誰ですか?」を実施。

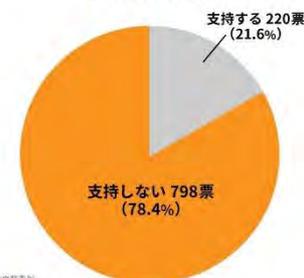
4日間(6月2日～5日)で投票総数は1018票、10代～90代の幅広い世代の男女から回答が集まった。ここでは、内閣支持率の結果を発表する。(#1で「ポスト安倍」人気アンケートの結果を公開中)



「安倍晋三内閣を支持しますか?」の結果は、「支持する」(220票/21.6%)、「支持しない」(798票/78.4%)と現政権に辛辣な結果に。

5月末～6月に発表された各社の支持率は朝日新聞29%(不支持52%)、共同通信39.4%(不支持45.5%)、産経新聞36.4%(不支持52.5%)と軒並み急落していたが、今回の調査ではさらに“辛め”な数字となった。

あなたは安倍晋三内閣を支持しますか?  
【全体数1018票】



©文春オンライン

政治ジャーナリストの後藤謙次氏は次のように分析する。「政権を担うリーダーはこういう危機の際はむしろ“強くなる”ものです。ドイツのメルケル首相は支持率が一時80%に達し、多数の感染者・死者を出したイタリア・コンテ首相ですら支持を伸ばしました。

特に安倍首相にとって減点の対象となったのは、危機における『発信力』でしょう」

これまでのところ、日本では新型コロナウイルスによる感染者数、死者数ともに欧米諸国に比べると極端に少ないが、リーダーによる“伝え方”で差が出てしまったか。

## 「ポスト安倍」人気に異変 安倍首相は3位転落、1位は石破茂、では2位は?——「次期首相」アンケート

「文春オンライン」編集部 2020/06/18

安倍晋三首相(65)は2021年9月に自民党総裁任期満了を迎える。新型コロナの影響で経済悪化の底が見えないなか、給付金の遅れや“アベノマスク”に不満が募り、黒川弘務前東京高検検事長が賭けマージャンで辞任したことも反発を招いた。世論の信頼を損ね、「安倍1強」が揺らいでいる。

一方、このコロナ危機で、脚光を浴びたのが首長たちだ。2月に独自の緊急事態宣言を出して、存在感を示した鈴木直道・北海道知事(39)。自粛をめぐり、国と渡り合った小池百合子・東京都知事(67)。そして出口戦略「大阪モデル」を出した吉村洋文・大阪府知事(45)など、各知事のリーダーシップに注目が集まった。



左から北海道知事・鈴木直道、東京都

知事・小池百合子、大阪府知事・吉村洋文 ©AFL0/時事通信社  
 自民党では、新型コロナ対策担当相として最前線に立ち続ける西村康稔経済再生担当相 (57) が知名度アップ。他に「ポスト安倍」として報じられるのは、政権批判を先鋭化させる石破茂元幹事長 (63)、禅譲路線といわれる岸田文雄政調会長 (62)、ブルーインパルス都心飛行を指示した河野太郎防衛相 (57)、第1子が誕生で育休を取得した小泉進次郎環境相 (39)、経済誌で「人生相談」連載を始めた菅義偉官房長官 (71) もクローズアップされる。



(左上から時計回りに) 安倍晋三、

石破茂、加藤勝信、岸田文雄、小泉進次郎、河野太郎、西村康稔、菅義偉 ©文藝春秋/AFL0/Getty

そこで『文春オンライン』では、緊急アンケート「安倍晋三内閣を支持しますか?」「次期首相になってほしいのは誰ですか?」(選択肢は下記)を実施。4日間(6月2日~5日)で投票総数は1018票、10代~90代の幅広い世代の男女から回答が集まった。その結果を発表する。

—— 安倍晋三内閣を支持しますか?

—— 次期首相になって欲しいのは誰ですか?

- ・安倍晋三 (4選)
- ・石破茂
- ・加藤勝信
- ・岸田文雄
- ・小泉進次郎
- ・河野太郎
- ・西村康稔
- ・菅義偉
- ・小池百合子 (東京都知事)
- ・鈴木直道 (北海道知事)
- ・吉村洋文 (大阪府知事)
- ・その他

「ポスト安倍」まさかの2位は……?

「次期首相になってほしいのは誰ですか?」の結果に移る(＃2で「支持率」の結果を公開中)。

346票と堂々の1位になったのは、石破茂元幹事長だった。首相と距離を置く石破氏だが、あらためて「ポスト安倍」人気の高さを示した。

そして2位には“非国会議員”ながら、191票を集めた吉村洋文知事がランクイン。コロナ対策で一気に認知度を上げた。さらに首長では、小池百合子知事が5位(45票)、鈴木直道知事も8位タイ(25票)と一定の支持を得ている。

安倍首相・4選(89票)は3位だった。4位には独特のSNS戦略で支持層を広げる河野太郎防衛相(81票)。6位に安倍首相が後継者に見込んでいるとされる岸田文雄政調会長(31票)。

7位は選択肢に入っていなかった「れいわ新選組」山本太郎代表(45)が28票で食い込んだ。以下8位タイに菅義偉官房長官(25票)、10位に小泉進次郎環境相(23票)が続く。その他の候補者は票が割れた。

「ポスト安倍」次期首相になって欲しいのは誰?  
 【総数1018票】

順位	人物	投票数
1位	石破茂	346
2位	吉村洋文	191
3位	安倍晋三(4選)	89
4位	河野太郎	81
5位	小池百合子	45
6位	岸田文雄	31
7位	山本太郎(※)	29
8位タイ	菅義偉	25
8位タイ	鈴木直道	25
10位	小泉進次郎	23

©文藝春秋

※山本太郎氏は選択肢外からランキング入り

なお文春オンラインでは昨年末にも、「ポスト安倍」アンケートを実施している。その際は1位石破茂氏(302票)、2位安倍首相・4選(176票)、3位河野太郎氏(92票)、4位小泉進次郎氏(79票)、5位岸田文雄氏(43票)という結果だった。

2つのアンケート結果を比較すると、石破氏がポスト安倍レースの票を固めた一方、安倍首相から票が離れた。また今回選択肢とした首長が支持を集めていることも分かった。(この結果を受けて、解説記事<#3「ポスト安倍」人気1位 “石破茂総理”誕生への条件は?>、<#4「ポスト安倍」人気4位 河野太郎にブロックされた私が痛感した「太郎が首相になるために足りないもの」>をそれぞれ公開中)

ではそれぞれの候補を推す理由を見ていく。

【10位 小泉進次郎氏 23票】

「小泉さんの言う事なら聞いてもいいかなと思えるから」(40歳・女性)

「政治は将来の事を決めるから若い人が中心になってやるべきだと思うので」(44歳・男性)

「しがらみがない、若手の進次郎を押します」(57歳・男性)



アンケート10位(23票)だった小泉進次郎

©文藝春秋

【8位タイ 鈴木直道氏 25票】

「北海道での迅速なコロナ対応に好感が持てる」(50歳・女性)

「国も動いていない時から、危機感を持ち率先して動いている」(54歳・女性)

「苦勞人で、誠実そうな性格がわかるから」(45歳・男性)

「コロナウイルス騒動で最も冷静に判断を下し対応したと思う」  
(56歳・男性)



8位タイ (25票) にランクインした鈴木直道北海道知

事 ◎時事通信社

【8位タイ 菅義偉氏 25票】

「官僚組織にも睨みの利く、パワーのある政治家が必須」(45歳・男性)

「世襲議員は反対。苦労人で党内の人望もある菅さんを推す」(57歳・女性)

「人間的には石破さんがいいけど、政策的なことは、安倍さんを近くで見ていた菅さんがいいと思う」(56歳・女性)

「そろそろたたき上げの首相が見たいです」(41歳・男性)



アンケート 8位タイ (25票) だった菅義偉官房長官

◎文藝春秋

【7位 山本太郎氏 29票】

「弱い立場の人の味方になってくれるのは、この人しかいない感じなので、今は可能性が低くてもいざれなしてほしい」(57歳・女性)

「国民の目線で政治を考えている。これまでにない政治家のタイプだから」(70歳・男性)

「今までの常識ではとらわれない政治家。それが山本太郎」(54歳・男性)

「もう、利権政治はまっぴらです。苦しむ人と共に歩める人を首相にしたい」(73歳・女性)



唯一「選択肢外」からランクインした山本太

郎氏 (7位、29票) ◎文藝春秋

【6位 岸田文雄氏 31票】

「政策通でインテリジェンスを感じる。リーダーシップに物足りなさを感じるが、地位が人を作っていくだろう」(67歳・男性)

「自民党のなかでは、リベラルだから」(72歳・男性)

「広島県選出議員だから」(53歳・男性)

「コロナ後の世界が混迷する中で、日本の存在力を示す政策を打ち出す能力が岸田さんにはあると思います」(73歳・女性)



6位 (31票) に入った岸田文雄自民党政調会長 ◎文藝

春秋 【5位 小池百合子氏 45票】

「気品がありながらも上から目線ではなく寄り添う姿勢や、どん

どん改革を進めていき実際に成功している姿をみると、『この人に国のリーダーになってほしい』と純粋に思う」(17歳・女性)

「古い政治、派閥、しきたりに囚われない新しい政治をしてくれそう」(22歳・女性)

「もうそろそろ女性の首相が出てもいいのでは？ 元キャスターだけあって、言葉がはっきりしているので信頼できます」(42歳・女性)

「国会議員に首相が務まる人材がいない。与野党ともに」(65歳・男性)

「コロナウイルスへの対応が政府よりも敏速、適切な感じがしました。国際的な経験も豊富な様なのでぜひ首相になってもらいたい」(69歳・男性)



「非国会議員」ながら5位 (45票) に入った小

池百合子東京都知事 ◎AFL0

【4位 河野太郎氏 81票】 <#4「ポスト安倍」人気4位 河野太郎にブロックされた私が痛感した「太郎が首相になるために足りないもの」>公開中

「河野さんは閣内で実績をあげつつも自分のスタンスがあると思います。SNSで若い世代のひとたちの関心もつなぐ巧者。次代のリーダーにふさわしい」(67歳・男性)

「河野大臣の父上、河野洋平氏もよい政治家でした」(65歳・男性)

「SNSを頻繁に更新し、国民に不利益なことがないようにと注意喚起もしてくれたりしているから」(26歳・女性)

「庶民の空気が読めそうだから(ツイッターのつぶやきの内容で知るレベルですが)」(49歳・女性)

「これらの候補者の中で1番ITに強いのは間違いなく河野太郎である。アフターコロナ=デジタル化の推進と捉え、リーダーシップを発揮してくれそう」(33歳・男性)

「YouTubeでわかりやすい話をしていて、国民に分かって貰える政策が出来ると思う」(35歳・女性)

「ブルーインパルスに感動した。心がある政治家だと思った」(50歳・女性)



前回3位、今回も4位 (81票) に入った河野太郎防衛相 ◎文藝春秋

【3位 安倍晋三首相 (4選) 89票】

7年半という長期政権になり、他の人には任せられないという声が目立った。

「選択肢からこの混乱を終息させる候補者が見当たらない」(64歳・男性)

「他の候補はイメージできない」(70歳・男性)

「河野氏、小泉氏、吉村氏は、まだ経験が不足しており、現状では他に任せられる人材がいないから」(67歳・男性)

「他に誰がいます？」(58歳・男性)



安倍晋三首相(4選)は3位(89票)だった ©AFL0

「非常時に国のトップを一時の政争で簡単に変えるべきではない」(31歳・男性)

「コロナ対策は初めての経験、誰がトップでも混乱を招いていたと思う。10万円の給付金制度を実行して頂けて助かりました」

(32歳・女性)

憲法改正を期待する意見も。

「まだ憲法改正を実現させていない」(65歳・男性)

「憲法改正を実現してほしいから。リーダーシップを発揮して、成果を上げてきたと思う」(53歳・女性)

「憲法改正をしようとしている人は他にいない」(70歳・男性)

【2位 吉村洋文氏 191票】

「ポスト安倍」人気で急浮上した吉村知事。やはり今回のコロナ対応で一気に知名度を上げたようだ。

「私利私欲を捨てて、府民のために一生懸命戦っている。吉村知事の目が物語っています」(62歳・女性)

「真のリーダーシップが取れる人。隣の兵庫県に住んでいると、コロナの対策が的確に次々に実施され、羨ましい限りです」(65歳・男性)

「大阪モデルの構築で名を挙げた。西村さんともやりあった後、さっと身を引く勇気もある」(50歳・男性)

「若さ」を理由にあげる人も多かった。

「若くて実行力のあるこの人しかいないから」(62歳・女性)

「国会に若さでアタックしてほしいです」(47歳・女性)



半年前のアンケートでは名前が出てこなかった吉村知事。コロナ対応で知名度を一気に高め、2位(191票)に

©時事通信社

橋下徹氏の名前を出す意見も。

「日本維新の会を支持しているから。さすが橋下徹の後継者だと思ふ」(59歳・男性)

「橋下徹の入閣とセットで政権を担う前提で期待感があります」(46歳・男性)

現実的には可能性は低いのは理解しているという声もあった。「吉村氏が次期首相になれるポジションにない事は分かっているが、希望する首相像として選択した」(54歳・男性)

「現実味のない話かもしれませんが、政治がワクワクするものになるとしたらこの人かなと思いました。与野党民間ミックスのドリームチームの内閣が見てみたいです」(45歳・男性)

【1位 石破茂氏 346票】<#3「ポスト安倍」人気1位 “石破茂総理”誕生への条件は?>公開中

何より“安倍政権との距離感”をあげる人が多かった。

「野党の国会議員は政権を担当するほどの気概は無いので、党内野党的な石破茂に期待したい」(66歳・男性)

「自民党で安倍総理と距離をおいている石破さんなら気持ちを

引き締めて政治を行ってくれるのではないかと」(42歳・男性)

「安倍総理とは対極にあると思うので」(34歳・女性)

「とりあえず現実的な線で、安倍政治を否定して欲しい」(57歳・男性)

「永らく耐えてきた、今度はやってくれるでしょう」(99歳・男性)



前回に続き、今回も人気1位(346票)となった石破茂氏 ©文藝春秋

石破氏の語る政策を評価する意見も。

「自民党の中で一番まともな政策案を持っているから」(71歳・男性)

「至極まっとうな意見が多い。防衛論議についても、他の人よりも識見が抜きんでいてと感じる」(47歳・男性)

また説明の仕方・人柄への期待も高かった。

「論理的で客観性があり、説明が分かりやすく、根拠がしっかりしている」(45歳・男性)

「論旨がはっきりしていて首尾一貫している。誠実な人柄が好ましく感じられる」(85歳・男性)

「防衛大臣の時から落ち着いている方で好きなので」(42歳・女性)

「常に地方を巡って、国民の声を聞いている。何より語る言葉が信用できる」(60歳・男性)

## 「ポスト安倍」人気1位 “石破茂総理”誕生への条件は? そして自民党最大の対抗馬は誰か?

政治ジャーナリスト・後藤謙次氏に聞く

「文春オンライン」編集部 2020/06/18

100年に1度の国難と言われるコロナ危機によって、「ポスト安倍」人気に異変が起きた。文春オンラインで行った読者アンケートの結果、吉村洋文府知事、小池百合子都知事をはじめ、首長たちが支持を広げる一方、現職国会議員の票が伸び悩んだ。

遅くとも来年の秋には行われる自民党総裁選。これから「ポスト安倍」レースはどうなるのか。石破茂氏ら有力候補が首相の座につくための条件とは? 政治ジャーナリストの後藤謙次氏に聞いた。(全4回の3回目/ #1、#2、#4も公開中)



なぜ吉村・小池・鈴木に多くの票が集まったのか?

まず指摘できるのは、安倍首相の「地盤沈下」です。

安倍首相(4選)は昨年未からグッと支持を落として、3位。これは7年半という長期政権からくる“飽き”が最大の要因でしょう。

加えてここまでのコロナ対策に関しては、安倍首相の“失政”と言ってもよい対応が目につき、リーダーシップに大きな疑問符がついてしまいました。

そして「ポスト安倍」人気1位は変わらず石破茂氏です。ただし安倍首相の落ち込みを見ると、石破氏の伸びもそれほどではない。安倍首相は昨年から100票弱下がっています。そうであれば

石破氏は 400 票を超える数字になっていないと差引勘定が合わない。



「ポスト安倍」アンケートで1位 (346票) になった

石破茂氏 ©文藝春秋

これは“後継者難”という現実の反映でしょう。「いまの安倍政権には変わって欲しい」、けれども「具体的に自民党に後継者がいない」。だからこそ実際は「ポスト安倍」“有資格者”とはいえない吉村洋文 (2位)、小池百合子 (5位)、鈴木直道 (8位) 各知事、そして山本太郎氏 (7位) に票が集まったのでしょう。

「ポスト安倍」次期首相になって欲しいのは誰？  
【総数1018票】

順位	人物	投票数
1位	石破茂	346
2位	吉村洋文	191
3位	安倍晋三 (4選)	89
4位	河野太郎	81
5位	小池百合子	45
6位	岸田文雄	31
7位	山本太郎(※)	29
8位タイ	菅義偉	25
8位タイ	鈴木直道	25
10位	小泉進次郎	23

©文藝春秋

文春オンラインで行った「ポスト安倍」アンケートの結果 (6月2日～5日実施、投票総数は1018票) 安倍首相の減点ポイントは「発信力」

政権を担うリーダーはこういう危機の際はむしろ“強くなる”ものです。ドイツのメルケル首相は支持率が一時80%に達し、多数の感染者・死者を出したイタリア・コンテ首相ですら支持を伸ばしました。

特に安倍首相にとって減点の対象となったのは、危機における「発信力」です。

2月下旬に新型コロナが本格化してから、安倍首相の口から国民の心に届く言葉があったか、と問われても、ほとんど記憶にならないのでしょうか。

NHK、民放各局がテレビ中継する首相会見も何度も行われました。そもそも首相会見は視聴率もひとけたの下の方でテレビ局にとって“消化試合”のような位置づけです。しかしコロナ危機では国民の関心が集中。たとえば2月末の会見ではNHK総合で15%を超える視聴率を記録しました。

ところが当の安倍首相はプロンプターを見て、官僚の書いた原稿を“朗読”する。プロンプターは左右に置かれているため、真正面を向く機会が極端に少ないのが印象的です。

また首相会見といいながら、専門家会議の尾身茂氏が同席。自分一人が矢面に立って、なんでも受けてやるという姿勢が見えませんでした。



首相会見に同席する尾身茂氏 (左)。安倍首

相 (4選) はアンケートで3位 (89票) だった ©時事通信社

NHKで中継を見た方も多と思いますが、18時から始まって、18時40分すぎに中継が終わる。記者からの質問が盛り上がり「いよいよこれからだ」というところで、なぜかスタジオ解説に切り替わる。民放も途中でCMが入り、やはり19時前に終わってしまう。

首相が覚悟を国民に伝えるとするならば、会見時間を早めて、質問時間をたっぷり取る方法もあったはず。最初の会見では「次がありますから」と質問が打ち切られて、翌日の首相動静を見た後30分後に帰宅していたということもありました。

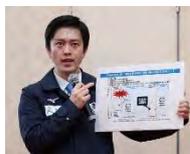
それが指摘されると今度は会見の後ろに「対策本部」を入れるようになりました。これは本来順序が逆で、「対策本部」で決まったことを会見で語るというのが筋でしょう。

危機においてリーダーは立ち向かわなければいけないのに、逃げる姿勢が見えた。安倍首相のリーダーシップが問われた象徴的なシーンでしょう。

「吉村洋文にあって、小泉進次郎にないもの」

一方、票が集まった吉村洋文、小池百合子、鈴木直道各知事。彼らに共通していたのは「指導力」そして「発信力」。これは安倍首相との比較論でもあったと思います。

とりわけ急激に票を集めた吉村府知事は45歳という若さで、言葉に力があり、決断が速い。「大阪モデル」という独自基準を5月上旬には導入し、軽症者・中症者・重症者による受け入れ先の振り分けも早かった。その結果、一時100人を超えた大阪府の新規感染者は5月下旬以降0人～数人という日が続きました。



「ポスト安倍」アンケートで2位 (191票) に

なった吉村洋文府知事 ©時事通信社

加えて、毎日府庁のボード前に出てきて府民に強く訴えかけていた姿が印象に残っているという人が多いのでしょうか。

「若さ」でいえば、小泉進次郎環境相 (10位) は39歳です。しかし彼は対照的に「発信力」を欠きました。環境相という立場ですから、感染症対策に関して発言のタイミングも何度もあったはずですが、でも閣僚になってからこぢんまりして、「内閣の一員」に収まってしまった。父親の純一郎氏は閣僚時代も更迭を恐れぬ発言をする政治家でした。小泉環境相の魅力も“はみ出し野郎”というところでしょう。“はみ出さない小泉進次郎”は魅力を欠きます。

メディアも“密”を避けるため、取材が難しくなっている時期に“撮れ高”の低いところには人を出しませんよね。今後復活する可能性はありますが、小泉氏は「ポスト安倍」としてはいったんお休みというところでしょうか。

さて吉村知事はこれだけの人気ですから、望めば衆議院議員になることは容易い。ただし維新で生まれ育った政治家・吉村洋文にとって、その維新という枠が逆に大きな障害になるでしょう。

総理になるためには、国会で過半数に「吉村洋文」という名前を書いてもらわなければなりません。そのためにまず国会議員になって、維新の代表になって、さらに維新が政権与党にならなけ

ればなりません。現実の行程を考えるととても険しい道のりが待っています。

鈴木直道のほうが国政に近い？

その点で、39歳の鈴木直道知事のほうが道は近いかもしれません。北海道の地元メディアの知人に聞くと「彼は知事を2期やって国政だろう」と。47都道府県知事で現在最年少ですが、彼が自民党から国政に出馬し、若きエースとしてひと暴れする可能性はある。ただし鈴木知事も1期目の途中。任期は2023年まであります。



鈴木直道知事。「ポスト安倍」人気8位に。北海道知事としての任期は2023年まで ©AFLO

小池知事については与野党に敵をつくり過ぎました。国会議員に戻れてもそこから先の展望が見えません。

安倍総裁は来年9月末には任期満了を迎えます。東京都知事選に名乗りをあげた山本太郎氏(7位)も含めて、「非国会議員」は人気投票で上位にあがってきて、来年秋までの「ポスト安倍」レースのゴールラインまで走り切ることは難しいでしょう。

“人気1位”石破茂のライバルは？

現実的に「ポスト安倍」を考えたとき、国民から人気のある石破氏か、安倍首相が後継の最有力と目論む岸田文雄党政調会長(6位)か、という声が永田町周辺でも聞こえてきます。



アンケート6位の岸田文雄党政調会長 ©□文藝春秋

昔からよく言われてきたことですが、総理大臣になるには色々な条件がある。なかでも、自民党で大事だとされてきたことに「床の間を背にして似合う人」というのがあります。つまり「すわりがよい」ということ。

安倍首相はそういう意味で「すわりがよかった」。政治家一族のプリンスで見栄えもよいし、清和会という伝統ある派閥の背景もある。

では石破氏は「床の間を背にして似合うか」。私は“若干”はあると思います。

対して岸田氏はどうか。コロナ危機において、政調会長という立場は相当働けたはず。しかしスピードも遅かったし、アイデアも分かりづらかった。たとえば10兆円の予備費の問題がありますが、ここでも岸田案を明確に示すことができたはず。岸田氏を中心になった「事業者への家賃補助」のスキームも非常に理解しづらいものでした。

岸田氏は“優等生”タイプで、平時であれば間違いなくトップ候補です。宏池会という派閥の長であり、現首相の禅譲路線。安倍・麻生・岸田の3派連合が固まれば不動のものだった。しかしこういう事態のとき議員心理は「安倍さんが勝ち続けた選挙のときとは違う」と。そして「誰なら選挙に勝てるのか」という個々

の議員の思惑が表面化してきます。派閥の論理が薄らぎ、岸田氏が“安倍首相の流れ”だということがマイナスになってしまう可能性があります。「路線を転換して欲しい」という世論に岸田氏はどこまで応えられるのでしょうか。

「誰なら選挙を勝てるのか」石破茂に足りないもの

政権を作るとき、必ずそこには“大義名分”が必要になります。「何のために総理大臣になるのか」そして選ぶ側は「どういう理屈でこの人を選ぶのか」。

「総理大臣は時代が求める」とも言われますが、たとえば田中角栄(1972年~74年)のあとに、三木武夫(74年~76年)が首相になった。それは「クリーン三木」といって『金権で政権が倒れたから、ここはクリーンな三木がいい』ということで指名されたわけです。

あるいは失敗した例ですが、竹下登(87年~89年)のあとの宇野宗佑(89年)。このときはリクルート事件で“ポスト竹下”が総崩れした。竹下は「政策の継続性」を打ち出し、翌月に控えたサミットを見越して、外交政策を引き継ぐ宇野外相を指名するのです(女性問題が出たため、69日で宇野政権は終わってしまいます)。

“大義名分”で考えると石破氏は「安倍路線の転換」を軸に政策を構想できるでしょう。反対に石破氏に足りないのは総裁選というインナー選挙での人気です。12年、18年の総裁選でも党員票ではよい勝負をするのに、国会議員票が集まらなかった。

「誰なら選挙を勝てるのか」という自民党議員の思惑に答えることができれば、角栄からの“転換”を図った三木のように総裁の座を射止める可能性があるのではないかと。

今月の『文藝春秋』で石破氏は二階俊博幹事長、菅義偉官房長官、竹下亘氏の名前を具体的に示しています。石破氏の頭の中で「二階氏を軸に総裁選へ向けて動くのであれば……」という枠組みを示したものでしょう。じっさいに石破派のパーティの講師を二階氏にお願いしに行き、二階氏が受諾したこともニュースになりました。



「ポスト安倍」として名前の挙がる候補。(左上から時計回りで)安倍首相、石破茂氏、加藤勝信氏、岸田文雄氏、小泉進次郎氏、河野太郎氏、西村康稔氏、菅義偉氏 ©□文藝春秋/AFLO/Getty

石破氏の強みをひとつ挙げるとすると、石破派は議員19名と小さいながらも優秀な保守の政治家がいる。斎藤健元農水相、田村憲久元厚労相、鴨下一郎氏……。鴨下氏は医師免許を持っていますからコロナ問題でもしばしばテレビで発言していました。側近の優秀さでいえば石破派でしょう。

現状の数の論理から考えると「ポスト安倍」は石破 vs. 岸田というのが最も順当なところ。しかし戦をするうえで、それぞれに大きな弱点を抱えていることは否めません。「選挙に勝てる顔」、これならイケるという人が出てくると、一気にそちらに流れる可能性もあります。

“3密はダメ”という「リモート政局」で、間接的にどうやって多数派工作をするのか。コロナ対策で評価を上げた吉村知事のようにメディア戦略に成功する政治家が前に出てくることになるでしょう。

「ポスト安倍」人気 4 位 河野太郎にブロックされた私が痛感する「太郎が首相になるために足りないもの」

畠山 理仁

「文春オンライン」編集部 2020/06/18

「ポスト安倍」アンケートで4位に入った河野太郎防衛相。現職国会議員では、石破茂氏、安倍晋三首相（4選）に次ぐポジションだ。Twitterを巧みに使い、柔軟に支持層を広げる河野氏は現役閣僚のなかでも国民の期待が高い。

ではその河野氏は「次の首相」にふさわしいのか。約15年前に河野氏を初めて取材したというフリーランスライターの畠山理仁氏が綴る。（全4回の4回目/#1、#2、#3より続く）



「ポスト安倍」にはいいポジションだが……

河野太郎の魅力は「挑戦する姿勢」だ。彼が今でも高く評価されているのは、長年培ってきた「攻める政治家」のイメージが広く世間に定着しているからだと思っている。つまり、河野太郎は今、「過去の遺産」で評価されているのではないだろうか。

第2次安倍政権で、河野太郎は行革等担当相（国家公安委員長）、外相、防衛相と要職に就いてきた。たしかにポジションとしては「ポスト安倍」を狙える位置にいる。しかし、彼が要職についてからの「めぼしい成果」を挙げられる人が何人いるだろうか。



2017年8月から外相を務め、昨年9月防衛相に就任

した河野太郎 ◎文藝春秋

外相在任中、河野は外国訪問回数59回、のべ123の国・地域を訪問し、歴代最多記録を更新した。ハイペースで外遊を重ねる一方、「スタンプラリー外交」との批判もあった。

外相時代の記者会見で日露の条約交渉の質問が出たときには、記者の質問を無視し続けて「次の質問どうぞ」を何度も繰り返した。これを評価する人はあまりいないだろう。

Twitterのユニークな活用方法が注目を集め、政治家としては、橋下徹、安倍晋三首相に次いで第3位のフォロワー数を誇っている。しかし、批判的な意見を次々ブロックすることで、「#河野太郎ブロック祭り」というハッシュタグが生まれた。一部では、河野にブロックされることが「ネタ」と化している。

しかし、私はこうしたイベント的な人気は「次の首相」につながるとは考えたくない。人々が首相という仕事を軽く考えているとも思いたくない。

私が河野太郎にブロックされて感じた「満足感」

私はこれまで何度も「河野太郎防衛相は記者会見を1年半近

くフリーランスの記者にオープンにしていない」と批判し続けてきた。それでもブロックされなかった。正当な批判だから、当然、河野防衛相が受け止めるべき問題だと思ってきた。

ところが、ブルーインパルスの東京上空飛行をめぐり、河野防衛相が記者会見で「プロセスはどうでもいいだろうと思う」と発言したことを私は問題視した。防衛相として、絶対に言うてはいけないことだと思ったからだ。



5月29日に東京の上空を飛んだブルーインパルス ◎AFL0

そこで私は河野太郎に向けて次のようにツイートした。  
＜河野太郎防衛大臣 @konotarogomame は自衛隊員を軽視しているのだろうか。自衛隊員を出勤させる「プロセス」はとても重要で、決して「どうでもいい」ことではない。自衛隊員が胸を張って仕事をできなくなるようなことを大臣がしてどうするのか。自衛隊員に対する敬意が感じられない。私兵じゃないぞ。＞

河野太郎防衛大臣 @konotarogomame は自衛隊員を軽視しているのだろうか。自衛隊員を出勤させる「プロセス」はとても重要で、決して「どうでもいい」ことではない。自衛隊員が胸を張って仕事をできなくなるようなことを大臣がしてどうするのか。自衛隊員に対する敬意が感じられない。私兵じゃないぞ。

－ 畠山理仁 / 『黙殺』（集英社文庫）発売中（@hatakezo） June 2, 2020

そして私はブロックされた。いまだに私の指摘が間違っていたとは思わない。

しかし、不思議なことに、私は河野太郎にブロックされたことで、「ようやく私も1人前になれた」などと妙な満足感を抱いていた。それほど私の周りには、「河野太郎にブロックされた」という人が多かったのだ。「ブロックされない方が異常なのではないか」と錯覚するほどに。

私は河野太郎が繰り返す容赦ないブロックに、かつての彼の魅力であった「攻めの姿勢」を感じていたのかもしれない。これは明らかに異常な状態である。

なぜ“ブロック太郎”を人々は評価するのか

ブロックはTwitterの機能だから、一概に否定はしない。面倒な絡み方をしてくる人も確かにいる。しかし、公的な立場にある者がブロックを連発するのはいただけない。

現役の防衛相である河野は、特別職の国家公務員＝全体の奉仕者だ。防衛相しか知り得ない情報や写真もTwitterで発信しているのだから、ブロックなどせず、すべての国民に情報を届ける努力をすべきだろう。

権力者は耳をふさいではいけない。批判を無視し続けるリーダーは「裸の王様」になる。そのうち、「責任を取れない」という糠釘答弁をするようになる。

ちょっと心配になって、『文春オンライン』に掲載された沖縄タイムスの阿部岳記者による記事を読んでみた。そうしたら、もっと心配になった。

阿部記者が河野にブロックされている人をTwitter上で募ったところ、「1日だけでおよそ700人が手を挙げてくれた」とい

う記述を見つけたからだ。

なんという激しい外交だ。直接絡んでいない人までブロックされているという。エゴサーチによる先制攻撃なのかもしれないが、圧倒的多数は一般市民である。河野がかつて立ち向かってきた「強者」ではない。河野は完全に戦う相手を間違っている。

そんな状態なのに、河野は「次期首相になってほしいのは誰？」というアンケートで4位につけた。なぜだ。

私なりに人気の理由を考えてみたが、正直なところ、最近の実績が評価されたからだとは思えなかった。人々が河野に期待しているのは、「安倍晋三首相のコピー」ではないはずだ。安倍路線を引き継ぐだけであれば、岸田文雄の人気ももっと上がってもいいはずだ。

やはり、河野は「自身の過去の遺産」になりつつある「攻めの姿勢」を評価されているのだと私は考える。これは攻撃的な言動で注目を集めた吉村洋文大阪府知事がいきなり2位にランクインしたことからもうかがえる。人々は「ポスト安倍」に「激しく戦う姿勢」を求めているのではないだろうか。

「ポスト安倍」次期首相になって欲しいのは誰？  
【総数1018票】

順位	人物	投票数
1位	石破茂	346
2位	吉村洋文	191
3位	安倍晋三(4選)	89
4位	河野太郎	81
5位	小池百合子	45
6位	岸田文雄	31
7位	山本太郎(*)	29
8位タイ	菅義偉	25
8位タイ	鈴木直道	25
10位	小泉進次郎	23

©文藝春秋

ポスト安倍アンケートの結果。

河野太郎氏は4位につけている

「文科省なんかやめちゃって……」魅力的だった“過去の太郎”  
私が初めてナマで政治家・河野太郎を見たのは2006年8月のことだ。当時の彼は43歳。同年9月に予定されていた自民党総裁選に、誰よりも早く出馬表明をしていた。

正確に言う。河野が「派閥調整ではなく、国民、党員に政策を訴えるのが先だ」と声高らかに出馬表明したのは、同年5月11日。9月20日に行われる自民党総裁選の4カ月以上も前のことだった。

あまりにも早い出馬表明に、マスコミの注目は「総裁選出馬に必要な推薦人20人を集められるのか」という点に集中した。彼が所属する「河野グループ」からは、リーダー格の麻生太郎が出馬することが確実視されていたからだ。当時の空気は「本当に集められるのか(笑)」だったと記憶している。

総裁選が近づいても、20人の推薦人は集まっていなかった。私が『週刊プレイボーイ』の取材に同席し、河野が語る熱い政策の数々に耳を傾けたのは、そんな時だ。

「政策を聞きに来たのは週プレが初めてです」



こちらは遡って1996年、初の衆議院選挙へ挑んだ河野太郎(当時33歳)。神奈川県15区から自民党公認で出馬し、見事に当選 ©共同通信社

取材班を嬉しそうに迎え入れると、彼は次々と思いついた政策を語り始めた。党の中で重要な地位を占めていれば、おそらくこんなに歯切れのいいことは言えなかっただろう。

「年金を消費税で賄って保険料を納めなくすれば社会保険庁はいらない」

「消費税を8%にすれば、保険料を納めなくても今の国民年金と同じ額を支給できる」

「文部科学省なんかやめちゃって、それぞれの市町村と教育委員会に権限とお金を渡して『自分でカリキュラムは考えてくれ』とやればいい」

元気な人がいるなあ、と思った。こういう人が自由に声を上げられる自民党は、捨てたもんじゃないなあ、とも思った。

しかし、推薦人は最後まで集まらず、河野太郎は2006年の総裁選に立候補できなかった。彼は間違いなく自民党の中では異端児であり、そうした役割こそが存在意義だった。

長いものに巻かれなかった太郎

若き日の河野太郎はとにかくチャレンジャーだった。強者に対する攻めの姿勢があった。

2009年9月の総裁選に手を挙げた時は、派閥のボスを「腐ったリンゴ」と評した。総裁選前の両院議員総会で「推薦人を10人に下げよう！」と動議も出した。この動議はあっさり否決されたが、河野は「推薦人集めを邪魔した」として、町村信孝を名指して批判した。

私が総裁選直後のインタビューで名指した理由を問うと、河野は胸を張って答えた。

「総裁選の最中に暗躍されても困るから、最初に一発ガツンと言う必要があったんです」

この総裁選で河野は推薦人20人を集め、初めて「総裁候補」となった。しかし、結果は次のとおり。党員票では西村康稔に大きく差をつけたものの、国会議員票では西村に負けた。国会議員票、党員票ともにトップの得票を得た谷垣禎一にはダブルスコアで敗れた。

◎国会議員票

谷垣禎一 120、河野太郎 35、西村康稔 43

◎党員票

谷垣 180、河野 109、西村 11

◎合計

谷垣 300、河野 144、西村 54



2009年の総裁選。谷垣禎一、河野太郎、西村康稔という顔ぶれだった。結果、河野は谷垣に敗れる ©AFL0

総裁選では全国遊説が行われる。私も街頭での演説会を取材し

たが、聴衆の反応が一番良かったのはお世辞抜きに河野だった。彼自身も私の取材にこう答えている。

「街頭演説では『ここで投票箱を回したら勝つな』という感覚が常にあった」

「今まで河野太郎は『自民党の中の冥王星』と言われていて、突然なくなってもわからないような存在だった。今回の結果で自民党の太陽は谷垣さんになったけど、河野太郎は太陽の近くにいる大きな星になった」

自民党の中ではメジャーになりつつも、外には大きな敵がいた。2009年8月30日の総選挙で政権交代を果たした民主党である。

河野太郎は野党の立場ながら、民主党政権下で行われた事業仕分けを視察し、「正直うらやましい。もっと厳しくやって」とハップをかけた。「民主党だけでできないなら、ぜひ私を入れてほしい。やる気は十分ある」とラブコールも送った。

無駄な事業を絞ることは国民のためになる。まだまだ河野の軸足は弱い者の立場にあり、目は強い者に対して向いていた。

「#河野太郎ブロック解除祭り」の開催を期待する

地位が人を作る、という言葉がある。河野を見ていると、どうしてもこの言葉が思い浮かぶ。

河野は行革等担当相として初入閣した2015年10月7日を境に大きく変わった。それまでは超党派の議員連盟「原発ゼロの会」の共同代表として「脱原発」を主張してきたが、入閣した日に「脱原発」の主張が載ったホームページが「メンテナンス中」になった（河野は現在、「原発ゼロの会」を休会中）。

就任会見で記者から脱原発の姿勢について問われると、苦しそうに答えた。

「言うべきところはしっかりとと言うが、政府の一員である以上、決まったことについては誠実に実行する」

私はこれを「河野太郎の『中の人』宣言」だと捉えている。中の人、とは権力の中の人。大臣というポストを得て権力に同化することで、河野は戦うべき相手を見失った。



1999年、国会前で。大好きなベルマーレのユニフォームを着て

◎文藝春秋

それでも人々は河野太郎に幻影を見ている。援軍もないのに、たった1人で強者に立ち向かいつづけた姿は、負ければ負けるほど強烈な印象を残したのだ。

河野には、人々の心の中に「戦う河野太郎の残像」が残っているうちに覚醒してほしい。もともと、政策を語ることは嫌いではないはずだ。人々の思いを背負う覚悟もあったはずだ。地べたから上を見上げていた時の思いもあるはずだ。

いま、河野太郎が牙を剥くべきなのは一般の人たちではない。人々の声に耳を傾け、人々を味方につけ、もっと強く、大きい者に立ち向かうべきだ。多くの人が河野太郎に期待しているのは、そこではないか。大臣の椅子に座る「お飾り」なら他にいくらでもいる。

すっかり忘れていたが、私は2010年にも河野太郎にインタビ

ューしていた。その時、河野太郎はこう語っていた。

「内輪の議論じゃなくて国民の中に打って出なきゃダメ」

河野太郎は国民をブロックしている場合ではない。私は一日も早い「#河野太郎ブロック解除祭り」の開催を期待している。「次の首相」が見えてくるのはその後だ。

(文中敬称略)

## 世論調査協会が遺憾の声明 フジ産経データ不正で政治

日経新聞 2020/6/25 19:38

世論調査の研究者や一部報道機関などでつくる日本世論調査協会は25日、フジテレビと産経新聞社の世論調査データ不正問題を念頭に「調査に携わる者は常に安易な妥協や誘惑と戦い、克服していかなければならない」との声明を発表した。不正については「強く遺憾の意」を表明した。

声明は「不正確なデータを世論として安易に世に示すようなことは、許されることではない」と強調。「調査の品質を損なわないためには、調査者の節度が不可欠だ」と指摘した。フジテレビと産経新聞は協会に加盟していない。

〔共同〕

## 世論調査の結果には偏り？誤解を解くために 池上彰さん

朝日新聞デジタル 2020年6月29日 8時41分



フジテレビと産経新聞社の合同世

論調査での不正について報じる20日付の朝日新聞（手前）と産経新聞の紙面

池上彰の新聞ななめ読み

「マスコミの世論調査って、どこまで信頼できるんですか？」

私がよく聞かれる質問です。電話世論調査の仕組みを説明すると、「そこまで考えられているんですか」と感心してもらえますが、意外に多くの方が誤解しています。誤解内容は後で取り上げますが、不信感を増幅させる事実が明らかになりました。フジテレビと産経新聞社の合同世論調査で、調査委託先の業者が不正をしていたというのです。

（発表などによると、調査業務を委託されていたアダムコミュニケーション（東京都）が約半分を再委託していた日本テレネット（京都市）の管理職社員が不正を主導した。実際に得た回答の居住地や年齢などを変える方法で架空の回答を作成していた。調査に対し、この社員は「派遣スタッフの電話オペレーターの確保が難しかった」「利益向上のためだった」「社内のほかの人たちも手伝った」などと説明したという。

世論調査は、内閣支持率や新型コロナをめぐる対策など、政府の対応の評価などを尋ねるもので、毎回全国の18歳以上の男女約1千人が対象。不正は各回で100件以上、14回分で計約2500

件に上るといふ) (朝日新聞 6月20日付朝刊)

これは衝撃的なニュース。朝日…  
残り：1142文字／全文：1649文字

しんぶん赤旗 2020年6月27日(土)

## 憲法生かす政治に ウィメンズアクション



(写真)「憲法を生かした政治で私

たちの命を守ろう」と訴える参加者=26日、東京・有楽町駅前  
総がかり行動実行委員会は26日、東京・有楽町駅前安倍政権による改憲に反対するウィメンズアクションを行いました。国民の圧倒的多数の声に逆らい、任期中の改憲に固執する安倍首相の姿勢を批判し、「憲法を変えず、憲法を守り、生かす政治を」と呼びかけました。

参加者は、「STOP 安倍改憲」などのプラカードを掲げてアピールしました。

司会の菱山南帆子さんは、河井克行前法相と河井案里参院議員が逮捕された事件にふれ『安倍さんから』と受け取ったという。なんでもお金でゆがめる政治をこれ以上許してはなりません」と批判。「税金は私たちの暮らしを守るために使わせよう」と呼びかけました。

憲法共同センターの長尾ゆりさんは、医療、福祉、介護の7割を担う女性労働者が平時から低賃金などに苦しめられ、コロナ禍でも十分な防護もなく働いていると告発。「感染症や災害のもとでも一人ひとりが人間らしく生きられるよう、憲法を守り生かす政治を私たちの声で実現しよう」と訴えました。

## 社説 改憲CM規制は紳士協定で

2020/6/28 19:00 情報元日本経済新聞 電子版

憲法改正の際に実施する国民投票の手続きを定めた法律の改正案は、今月閉幕した通常国会でも成立に至らなかった。2018年の国会提出以来、2年たっても与野党が合意できずにいるのは好ましいことではない。



衆院憲法審査会 (28日)

自民、公明両党などが作成した国民投票法改正案は期日前投票の要件緩和などが柱だ。同趣旨の改正がなされた公職選挙法と仕組みをそろえるため、この変更には野党も原則賛成している。では、なぜ立憲民主党などは法案審議に応じないのか。「自民党が資金力にものをいわせて、改憲賛成のテレビCMを大量に流すおそれがある。CM規制の厳格化と一体で改正すべきだ」というのが言い分である。

いまの国民投票法はテレビCMについて「投票日の2週間前から

放送禁止」としか定めていない。それまでテレビが改憲賛成のCM一色になれば、国民が冷静に判断できなくなるのではないのか。そうした懸念には一理ある。

他方、憲法が定める表現の自由への制限は極力避けるべきだ。テレビCMを規制するにしても、流す時間帯で視聴率は異なり、放映回数や長さだけ決めても効果は明確ではない。法的な規制にはなじまない課題である。

考えられる一つの方法は、改憲に熱心な自民党が「テレビCMを集中豪雨的に流すことはしない」と公約することだ。主要政党は昨年の参院選でもCMを流したが、多すぎた印象はない。同程度ならば許容範囲内だろう。

さらによいのは、与野党が「過剰な宣伝はしない」との紳士協定を結ぶことだ。先ごろ、公明党がCM規制に関する与野党協議の場を設けることを呼びかけた。ぜひ実現させてほしい。自民党もこれを拒めば、「やはり大量CM作戦を考えている」との疑念を抱かれてもしかたない。

改憲の是非は、何をどう改正したいのかなどの中身の論議で決めるべきだ。手続き論争にそろそろ終止符を打ってもらいたい。

自民党広報の進化論誤用やめて 学会が反対の声明

2020/6/28 17:42 (JST)6/28 17:55 (JST)updated 共同通信社

自民党がダーウィンの進化論を誤用する形で憲法改正を主張したことに、日本人間行動進化学会(会長・長谷川真理子総合研究大学院大学長)は28日までに「生物進化がどのように進むのかの事実から『人間社会も同様の進み方をするべきである』とする議論は間違いだ」と反対する声明を出した。

問題となったのは自民党広報がインターネットに投稿した4コマ漫画。進化論では「生き残ることができるのは最も強い者でも最も賢い者でもなく、変化できる者だ」として、憲法改正を主張した。

声明は「ダーウィンの進化論は思想家や為政者に誤用されてきた苦い歴史がある」としている。

自民漫画「科学の悪用」と専門家 進化論で改憲主張に批判

2020/6/25 15:20 (JST)6/25 15:31 (JST)updated 共同通信社

自民党が憲法改正の必要性を訴えるため公式ホームページに掲載した4コマ漫画が批判されている。ダーウィンの進化論を取り上げているが、科学者は「誤用で、科学の悪用だ」と指摘する。

掲載は今月19日で、進化論では「唯一生き残ることが出来るのは変化できる者である」と言われていると解説。日本をより発展させるために改憲が必要だとしている。

なぜ誤用なのか。総合研究大学院大の長谷川真理子学長(進化生物学)によると、漫画が「引用」した部分はダーウィンの進化論を発表した「種の起源」に記載されていない。

自民党広報本部は「幅広い方々にお考えいただく機会になれば」としている。

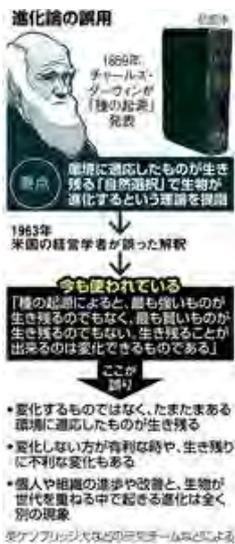
進化論をマンガが誤用 学会が反対声明「論理的に誤り」

朝日新聞デジタル小坪遊 2020年6月28日 15時00分



進化論の誤用をもとに憲法改正の必要性

を訴えるマンガ=自民党広報のツイッターから



自民党がダーウィンの進化論を誤用した言い回しを使って憲法改正の必要性を訴えた問題で、日本人間行動進化学会（会長=長谷川真理子・総合研究大学院大学長）は27日、会長と理事会名で、誤用に反対するなどとする声明を出した。

同学会は、人間の行動や心理などを、進化の観点から研究する専門家の集まり。学会を紹介するサイトにはダーウィンの写真も掲載されている。

声明は、ダーウィンの進化論に「思想家や時の為政者によって誤用されてきた苦い歴史がある」と指摘。「生物の進化のありようから、人間の行動や社会がいかにあるべきかを主張することは、論理的な誤り」だと説明する。「特定の政治的意見を主張するものではない」とした上で、進化論を社会的影響を持つ団体や個人が誤用することに反対を表明している。

一方で、誤用がなくならない現状について「科学に携わる者の努力不足だと言わざるを得ない」と反省も示した。「私たちには、進化のありようを、安直に社会の望ましいあり方として提示することの危険性について、社会に警鐘を鳴らす責任がある」などと、研究者の責任にも言及した。

問題となったマンガでは「もやウィン」という架空のキャラクターが登場。「ダーウィンの進化論ではこういわれておる」など

として「最も強い者が生き残るのではなく 最も賢い者が生き延びるのでもない」「唯一生き残ることが出来るのは 変化できる者である」と説明。直後から専門家らが誤用だと批判していた。声明は学会のホームページ (<https://www.hbesj.org>) から読める。(小坪遊)

誤用の発端は50年以上前（いちからわかる）

Q 自民党のツイッターで「ダーウィンの進化論」が問題になったね。

A 憲法改正を呼びかける4コマ漫画で、「唯一生き残ることが出来るのは、変化できる者」と訴えた。ダーウィンは進化論を唱えた一人だけれど、この表現はよくある解釈の誤解の一つなんだ。

Q え、そうなの？

A そもそも進化論は、ヒトや…

残り：591文字/全文：1413文字

### 「自民党が言う進化論は間違い」 学会が反対声明

東京新聞2020年6月29日 05時55分

自民党がダーウィンの進化論を誤用する形で憲法改正を主張したことに、日本人間行動進化学会（会長・長谷川真理子総合研究大学院大学長）は「生物進化がどのように進むのかの事実から『人間社会も同様の進み方をするべきである』とする議論は間違いだ」と反対する声明を出した。

問題となったのは自民党広報がインターネットに投稿した4コマ漫画。進化論では「生き残ることができるのは最も強い者でも最も賢い者でもなく、変化できる者だ」として、憲法改正を主張した。

声明は「ダーウィンの進化論は思想家や為政者に誤用されてきた苦い歴史がある」とし、権力者らによって差別や抑圧に悪用されてきたことを紹介。科学者は警鐘を鳴らしてきたが、現代でも特定の政治的主張に権威を持たせるための誤用が後を絶たないと懸念を表明した。

さらに「ダーウィンの言う進化は、ランダムに発生した変異の中から、環境に適さないものが淘汰(とうた)されていく過程だ」と漫画の誤りを改めて指摘。政治的主張は科学的知識を誤用して行うのではなく「個人や団体の信念として表明するべきだ」とくぎを刺した。

### 動画発信、集会も再開 機運醸成へ活動本格化—自民改憲本部

時事通信2020年06月25日 18時30分

自民党憲法改正推進本部は25日、党本部で会合を開き、改憲への機運を高めるための活動を本格化させることを確認した。同本部では既に、憲法への自衛隊明記に理解を求めるための動画を作成し、インターネット上で発信を開始。新型コロナウイルス感染拡大で中断を余儀なくされた集会も再開する。

同本部の遊説・組織委員会が作成した動画は、コロナ禍の中で活動する自衛隊員を紹介したものなど。自衛隊違憲論に反論する狙いがある。